

## ごあいさつ

---

長崎に原爆が投下されてから 75 年もの年月が経ちました。壊滅的な被害を受け、70 年は草木も生えないと言われた長崎の街は、見事に復興を遂げ、平和都市として、核兵器廃絶と恒久平和の願いを世界へ訴え続けています。

戦後の長崎における都市形成の転機となったのが、1949（昭和 24）年の「長崎国際文化都市建設法」公布です。同法に基づき様々な事業が進められ、爆心地周辺が平和公園として整備された 1955 年（昭和 30）年に、その目的を概ね達成したとされています。

この企画展では、長崎の街が大きな変貌を遂げた、1945（昭和 20）年から 1955（昭和 30）年までの 10 年間で、まちや暮らしに焦点を当て、その変遷を写真でご紹介します。

写真を通して、原爆が奪ったものの大きさや、戦後の窮状、そこから立ち上がろうとした人間の力強さを感じていただけますと幸いです。

最後に、公益財団法人長崎平和推進協会写真資料調査部会の皆様、堺屋志津子様をはじめ、この企画展の開催に際してご協力をいただいたすべての皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。